

中国：小売・投資・鉱工業生産(2019年5月)

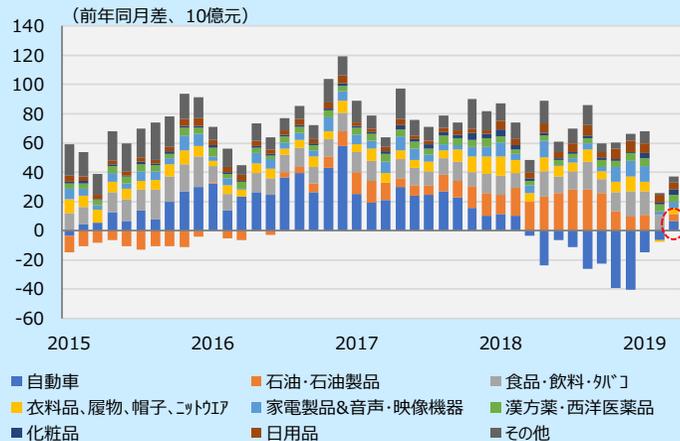
—小売は一部持ち直しも、生産・投資は減速—

MRI Daily Economic Points
June 17, 2019

図表1 小売売上高・固定資産投資および鉱工業生産



図表2 小売売上高の内訳(名目、指定年間売上以上の企業のみ)



評価ポイント

今回の結果

- 固定資産投資(除農業部家計)は前年同月比+5.6%と再び減速となった(図表1)。インフラ投資の承認が加速されているものの、民間投資の減速が強く政府の景気下支え策が十分でないことが垣間見える。
- また鉱工業生産も同様に減速し、前年同月比+5.0%となった(図表1)。実に17年ぶりの低い水準であり、米中貿易摩擦の激化が影を落としている。
- 一方、14日に発表された19年5月の小売売上高は、名目で前年同月比+8.6%、実質で同+6.4%と前月から加速した(図表1)。
- 唯一明るい水準となった小売について内訳(指定年間売上高を上回る企業のみを対象)を見てみると、自動車が小売の上昇に一定程度貢献していることがわかる(図表2)。しかし、別途公開されている自動車販売は19年5月に前年同月比▲16.4%と、過去最大の落ち込みを示しており、整合性がみられない。

基調判断と今後の流れ

- 19年1Qで改善の兆しを見せていた消費、投資のうち、投資が失速したことで2QのGDPは減速する可能性が出てきた。減速の背景にある米中貿易摩擦は再び激化の様相を呈している。G20に合わせて両国の首脳会議が開催されることが予想されるが、ここで合意を取り付けることができるかが大きな論点となる。
- 今後、政府はさらなる景気刺激策を実施することが予想されるが、景気を下支えできるのか、そして仮に景気刺激策が奏功したとしても、その間にどれだけバランスシート調整などを進め、経済の基礎体力を高められるかは課題。
- 直近では、中小の金融機関の財務体力に関する懸念が持ち上がっていることも懸念される。中央銀行の管理下に置かれた包商銀行以外にも、錦州銀行など経営に懸念が高まる銀行が増えつつある。中国経済が急失速を回避できるか、注目が集まる。